

「原水爆禁止 2019 年世界大会」にご参加の皆様及び関係者の皆様の熱意のこもった行動に深く敬意を表します。

核兵器の廃絶と平和の実現は、日本のみならず世界共通の願いであります。その中で日本は、唯一の核被爆国として、広島・長崎の思いを胸に、国際社会の核軍縮・不拡散への取組を主導し、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを、自国を含めた世界の人々に伝えていかななくてはなりません。

5月1日には、新天皇の即位にあわせ、元号が「令和」に改められましたが、新元号に込められた「人々が心を寄せ合う」という願いが、平和の実現に結びつくことを願っております。

当町におきまして、国際観光地を標榜する町として、その一端を担わなくてはならないと考えており、平成7年12月に「非核平和都市宣言」を行い、核兵器の廃絶を求めるとともに、平和への決意を表明いたしました。

また、平成23年9月には、町制施行55周年を記念しまして、芦ノ湖湖畔に「平和を願う碑」の建立を行いました。

この「平和を願う碑」の建立は、当町がまちづくりの基本理念である箱根町民憲章に基づき、町民の方はもとより、観光客の方々を含めた多くの人々の幸せと世界の平和に貢献できる町づくりを目指すことを改めて町内外に知らしめるために行ったものでございます。

今後も、悲しい歴史が繰り返されないことがないよう、核兵器の恐ろしさや戦争の悲惨さを世界の人々に訴えていくことに、町として努力していきたいと考えております。

最後になりましたが、本大会のご成功と、本日ご参加の皆様及び関係者の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げ、メッセージといたします。

令和元年8月3日

箱根町長

山口昇士